

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 29 年 2 月 14 日 午後用

第 68 回 獣 医 師 国 家 試 験

学 説 試 験 問 題 (B)

注 意 事 項

1. 問題数は、80 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを 1 つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき 2 つ以上マークした場合には、そのうちの 1 つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問81 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

81 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうち E 3 ☑を横線で、
81 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……   

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特
に注意すること。

問1 循環器疾患の治療薬とその作用機序の組合せとして正しいのはどれか。

治療薬	作用機序
1. ベラパミル	————— K^+ チャンネル遮断
2. エナラプリル	————— Na^+ - K^+ - $2Cl^-$ 共輸送体阻害
3. ピモベンダン	————— Ca^{2+} 感受性増加
4. ニトログリセリン	————— Na^+ , K^+ - ATPase 阻害
5. ジゴキシシン	————— 一酸化窒素による cGMP 増加

問2 下痢治療薬はどれか。

- a グリセリン
- b 硫酸ナトリウム
- c ロペラミド
- d ケイ酸アルミニウム
- e ラクツロース

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問3 犬糸状虫の幼虫の駆虫に有効なのはどれか。

- 1. モネンシン
- 2. ミルベマイシンオキシム
- 3. メラルソミン
- 4. ピランテル
- 5. ビチオノール

問4 銅中毒の治療に用いられる薬剤はどれか。

1. D-ペニシラミン
2. ピペロニルブトキシド
3. プラリドキシム
4. メチレンブルー
5. ワルファリン

問5 悪性腫瘍の治療に使われる葉酸代謝拮抗薬はどれか。

1. ドキソルビシン
2. 5-フルオロウラシル
3. プリメタミン
4. シスプラチン
5. メトトレキサート

問6 ビタミンB₁欠乏による病態はどれか。

- a 豚の黄色脂肪症
- b ヒトの壊血病
- c 鶏の多発性神経炎
- d 牛の脳皮質壊死症
- e 鶏の脳軟化症

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

問7 *c-kit* 遺伝子の変異により生じる KIT 蛋白質の異常リン酸化が腫瘍化と関連している犬の腫瘍はどれか。

- a 肥満細胞腫
- b 消化管間質腫瘍
- c 形質細胞腫
- d 大腸腺癌
- e 腸管 T 細胞性リンパ腫

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問8 馬の肺に肉芽腫性炎症を起こす疾患はどれか。

- 1. 腺疫
- 2. 馬鼻肺炎
- 3. 馬ウイルス性動脈炎
- 4. 仮性皮炎
- 5. 鼻疽

問9 ウイルスの分離・同定に関する記述として正しいのはどれか。

- 1. 0.45 μm のフィルター濾過でウイルス以外の全ての微生物を除去できる。
- 2. イドクスウリジン (IUdR) で感染が阻害されるのは RNA ウイルスである。
- 3. エンベロープを有するウイルスはエーテル処理に耐性である。
- 4. 走査型電子顕微鏡はウイルスのネガティブ染色の観察に用いる。
- 5. ウイルス分離の際には培地に抗生物質を加える場合が多い。

問10 化学療法薬に関する記述として正しいのはどれか。

1. β -ラクタム系抗菌薬は静菌的に作用する。
2. アミノグリコシド系抗菌薬の選択毒性はリボソームの違いによる。
3. キノロン系抗菌薬は DNA に直接作用する。
4. サルファ剤とトリメトプリムは葉酸合成の同じ過程を阻害する。
5. マクロライド系抗菌薬は RNA の合成を阻害する。

問11 犬パルボウイルス 2 型に関する説明として適切でないのはどれか。

1. 複製は細胞周期の M 期に依存する。
2. ゲノムは直鎖状の 1 本鎖 DNA である。
3. 感染細胞は核内封入体を形成する。
4. 犬パルボウイルス感染症では発症前からウイルスが排出される。
5. 弱毒生ワクチンがある。

問12 豚における日本脳炎の症状として適切なのはどれか。

1. 呼吸困難
2. 下痢
3. 流・死産
4. 関節の腫脹
5. 皮膚炎

問13 牛の出血性敗血症に関する記述として誤っているのはどれか。

1. *Pasteurella multocida* が原因菌である。
2. 主な感染経路は経胎盤感染である。
3. 原因菌のカタラーゼ反応は陽性である。
4. 甚急性では突然死亡する。
5. 不活化ワクチンがある。

問14 馬のゲタウイルス感染症に関する記述として正しいのはどれか。

1. 原因ウイルスはアルテリウイルス科に属する。
2. コガタアカイエカはベクターとなる。
3. 日本の馬では発生が認められていない。
4. 神経症状を呈した馬は予後不良である。
5. 発熱は認められない。

問15 口蹄疫ウイルスと同じ科のウイルスによる疾患はどれか。

1. マレック病
2. 封入体肝炎
3. 伝染性気管支炎
4. 伝染性喉頭気管炎
5. 鶏脳脊髄炎

問16 犬伝染性肝炎の特徴として誤っているのはどれか。

1. 一峰性の発熱
2. 食欲不振
3. 腹部の圧痛
4. 感染初期のブルーアイ
5. 感染細胞の核内封入体形成

問17 犬の血液薄層塗抹（ギムザ染色）により検出できる原虫はどれか。

- a *Toxoplasma gondii* のシスト
- b *Giardia canis* のトロフォゾイト
- c *Neospora caninum* のオーシスト
- d *Trypanosoma cruzi* のトリポマスチゴート（錐鞭毛型虫体）
- e *Babesia gibsoni* のピロプラズム

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問18 旋毛虫（*Trichinella spiralis*）に関する記述として誤っているのはどれか。

1. ヒトに感染する。
2. 宿主の糞便内に虫卵を排出する。
3. 食道部にスティコソーム（stichosome）をもつ。
4. 成虫は宿主の小腸に寄生する。
5. 圧平法や人工消化法が検査に用いられる。

問19 国民衛生の動向およびその指標に関する記述として適切なのはどれか。

1. 現在の我が国の人口ピラミッドはピラミッド型を示す。
2. 年央人口とは7月1日時点の人口をいう。
3. 生産年齢人口とは20歳から69歳までの人口をいう。
4. 従属人口指数は $\{(年少人口 + 老年人口) / 生産年齢人口\} \times 100$ で算出する。
5. 我が国において年齢調整死亡率は女性のほうが男性より高い。

問20 食品の腐敗の判定に用いられる指標はどれか。

1. 揮発性塩基窒素
2. 塩素要求率
3. D 値
4. 酸化還元電位
5. K 値

問21 現在我が国で放射線の照射が認められている食品はどれか。

1. 香辛料
2. 落花生
3. 胡麻
4. 小豆
5. ばれいしょ

問22 食中毒を起こす貝毒に関する記述として適切なのはどれか。

1. オカダ酸は二枚貝の神経性貝毒である。
2. ゴニオトキシンは巻貝の下痢性貝毒である。
3. サキシトキシンは二枚貝の麻痺性貝毒である。
4. テトラミンはバイ貝の麻痺性貝毒である。
5. スルガトキシンはアサリの下痢性貝毒である。

問23 生乳の殺菌に関する記述として適切なのはどれか。

1. 大腸菌の死滅が指標となっている。
2. 我が国では低温長時間殺菌法が主流である。
3. 保持式は熱伝導が良い。
4. 超高温殺菌法は 120～150℃で加熱する。
5. LL 牛乳には高温短時間殺菌法を用いる。

問24 食品添加物の表示に関する記述として正しいのはどれか。

1. バラ売りの輸入食品は防腐剤のイマリザルを表示しなくてよい。
2. 栄養強化剤であるビタミンおよびミネラルも表示しなければならない。
3. 保存料は物質名と用途名を併記しなければならない。
4. 容器包装に入れられた加工食品の詰め合わせでは表示が免除される。
5. アレルギーを起こす特定原材料はキャリーオーバーなら表示しなくてよい。

問25 と畜場における解体後検査で一部廃棄とされる疾患はどれか。

- a 伝達性海綿状脳症
- b リステリア症
- c 放線菌症
- d 住肉胞子虫症
- e 旋毛虫症

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問26 炭疽に関する記述として適切なのはどれか。

- 1. 炭疽汚染地帯の土壌では栄養型の原因菌が増殖している。
- 2. 感染の有無はツベルクリン反応で判定する。
- 3. 牛用のワクチンはない。
- 4. ヒトでは自然感染の95%以上が皮膚炭疽である。
- 5. 牛は豚に比べ抵抗性を示す。

問27 つつが虫病に関する記述として適切なのはどれか。

- 1. 我が国では秋疫などが地方病として知られていた。
- 2. 新型つつが虫病には春から初夏と秋から初冬に多く発生するものがある。
- 3. 病原体の血清型は3種類のみである。
- 4. 病原体のヒトへの伝播はツツガムシの成虫が吸血する際に成立する。
- 5. 我が国において現在の主な流行地は北海道である。

問28 アニサキス症およびその病原体に関する記述として適切なのはどれか。

1. -20°C 以下で 24 時間以上食品を冷凍処理するのは予防に効果的である。
2. 幼虫は食酢に漬けることで速やかに死滅する。
3. ヒトにはアニサキス科線虫の成虫が寄生する。
4. ヒトにおける寄生部位は胃のみである。
5. 手術による幼虫虫体の摘出は不可能である。

問29 パスツレラ症に関する記述として正しいのはどれか。

1. ウサギではスナッフを呈する。
2. ヒトではペニシリンは無効である。
3. ヒトにおける潜伏期間は 2～10 週間である。
4. ヒトでは一般に受傷部周囲のリンパ節の腫脹を主症状とし全身感染に進展する。
5. 犬や猫では菌血症を呈することが多い。

問30 A 型肝炎に関する記述として適当なのはどれか。

1. 有効なワクチンがない。
2. 我が国の若年者では抗体保有率が 50% 以上である。
3. 潜伏期間は通常約 24 時間である。
4. 慢性肝炎へ移行する。
5. 原因ウイルスに汚染された食品や水を介して経口感染する。

問31 生物化学的酸素要求量（BOD）に関する記述として正しいのはどれか。

- a 湖沼の水質の環境基準項目として設定されている。
- b 測定には通常5日間を要する。
- c 水の有機物汚染の指標である。
- d 増加することにより貧腐水性水域に住む生物の育成が促進される。
- e 水中の一般細菌数を計算により定量する際に用いる。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問32 特定外来生物に関する記述として誤っているのはどれか。

- 1. 指定された植物は日本国内での栽培が原則禁止されている。
- 2. タイワンザルが指定されている。
- 3. 個体だけでなく卵や種子も含まれる。
- 4. ワシントン条約で指定されている。
- 5. 海外からの輸入は原則禁止されている。

問33 都市環境に関する記述として正しいのはどれか。

- 1. 光害は都市よりも農村が多い。
- 2. 環境省により「光害対策ガイドライン」が策定された。
- 3. ヒートアイランド現象による気温上昇は地球温暖化による上昇より小さい。
- 4. 屋外照明がヒートアイランド現象の主な原因である。
- 5. 都市環境では下降気流により集中豪雨が起りやすくなる。

問34 酸性雨に関する記述として誤っているのはどれか。

1. 硫黄酸化物 (SO_x) や窒素酸化物 (NO_x) が主な原因となる。
2. 大規模な森林破壊を起こす。
3. 東アジアのモニタリングネットワークとして EANET がある。
4. 文化財や建造物に対する影響がある。
5. 亜硫酸ガスなどの酸性ガスを湿性 (酸性) 降下物という。

問35 我が国の環境対策に関する記述として正しいのはどれか。

- a 資源の有効利用促進のために 3R (Reduce, Reuse, Recycle) が推進されている。
- b 環境アセスメントでは都道府県の行政機関が方法書を作成する。
- c 我が国の環境基準は法的強制力をもつ基準 (standard) である。
- d 生物膜法は日本で最も普及している下水処理方法である。
- e PRTR*制度は化学物質による環境汚染を防止するために策定された。

※ PRTR : Pollutant Release and Transfer Register

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問36 乳用牛の飼料給与に関する記述として正しいのはどれか。

1. 農林水産大臣による確認済の肉骨粉は飼料原料にできる。
2. 乳期別の主な栄養管理法としてリキッドフィード方式がある。
3. 生後6か月を超えた牛用飼料には尿素を2%まで配合できる。
4. 飼料添加物として許可されている抗生物質は搾乳牛飼料に配合できる。
5. A 飼料および B 飼料が給与できる。

問37 鶏の飼養管理に関する記述として正しいのはどれか。

1. ビークトリミングは餌付けと同時に行う。
2. プロイラーは3～4か月齢で出荷される。
3. ケージ飼いに比べて平飼いではカニバリズムの発生が起りにくい。
4. 鶏は体温放散のためにパンティングを行うことができない。
5. 種卵の消毒にはホルマリン燻蒸が有効である。

問38 牛の個体識別に関する記述として正しいのはどれか。

1. 耳標の装着は「家畜伝染病予防法」によって規定されている。
2. 耳標は左右どちらかの耳に装着されていればよい。
3. 輸入牛は原産国の耳標を装着していれば我が国の耳標を装着しなくてよい。
4. HACCP システムの一環として導入された任意の制度である。
5. 小売り段階の精肉から牛の生産履歴情報を確認できる。

問39 疫学調査としてのスクリーニングに関する記述として適当でないのはどれか。

1. 比較的簡便で安価な検査法がある場合に行う。
2. 早期発見が意義のある疾患に対して行う。
3. 集団に対して組織的に実施できる体制がある場合に行う。
4. 疾患が疑われる動物の中から真に罹患した動物を発見するために行う。
5. 潜伏期がある疾患に対して行う。

問40 動物のストレスに関する記述として正しいのはどれか。

1. 馬において輸送時の発熱馬と非発熱馬で血液ガス分圧は顕著に異なる。
2. ウサギは輸送ストレスに対する抵抗性が特に強い。
3. 犬は血漿中のコルチゾール値が上昇する。
4. 子牛は離乳後すぐに輸送したほうがストレスが少ない。
5. PSE 豚は輸送ストレスに抵抗性を示した肉質の良い豚のことをいう。

問41 猫の特発性膀胱炎に関する記述として正しいのはどれか。

1. 飼育環境などによる精神的ストレスが原因の1つと考えられる。
2. 疼痛はみられない。
3. 尿沈渣に多数の好中球が認められる。
4. 重度の尿比重低下がみられる。
5. 抗生物質の投与が有効である。

問42 犬の副腎皮質機能亢進症と猫の甲状腺機能亢進症に共通してみられる異常はどれか。

1. 体重増加
2. 多飲多尿
3. 低コレステロール血症
4. 皮膚の菲薄化
5. 左右非対称性脱毛

問43 犬の誤嚥性肺炎に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 吐出がある動物で生じることが多い。
2. 胃液の肺への吸引は重篤な症状を引き起こしやすい。
3. 細菌感染を伴うことが多い。
4. 前葉および中葉に生じることが多い。
5. X線像では気管支パターンのみを特徴とする。

問44 犬の甲状腺機能低下症で認められる異常として一般的なものはどれか。

1. 活動性の亢進
2. 血中コレステロール濃度の低値
3. 非掻痒性脱毛
4. 体重減少
5. 頻脈

問45 巨大食道症に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 食道全体が拡張する。
2. 吐出がみられることはまれである。
3. X線造影検査は有用な診断法の1つである。
4. 誤嚥性肺炎を併発しやすい。
5. 食道が垂直となるような体位で食餌を与えるとよい。

問46 犬の急性膀胱炎に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 嘔吐、下痢、腹痛、食欲不振などの臨床症状がみられる。
2. 高脂血症は発症の危険因子の1つである。
3. X線検査で腫大した膀胱が明瞭に確認できる。
4. 超音波検査で膀胱周囲の脂肪組織が高エコー源性を呈することが多い。
5. 血中膀胱リパーゼ免疫活性（PLI）測定が診断に有用である。

問47 犬において形成に細菌感染が最も深く関与している尿石はどれか。

1. シュウ酸カルシウム結石
2. シスチン結石
3. 尿酸塩結石
4. キサンチン結石
5. ストルバイト結石

問48 犬の子宮蓄膿症に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 通常、発情後1～2か月の黄体期に発症する。
2. 子宮壁は萎縮、菲薄化している。
3. 発症にはプロジェステロンが関与している。
4. 多飲多尿が認められることが多い。
5. 頸管閉鎖型ではより重篤な症状が発現しやすい。

問49 血友病 A での血液検査所見として最も特徴的なのはどれか。

1. 血小板数の減少
2. PT の延長
3. APTT の延長
4. フォンヴィレブランド因子濃度の低下
5. フィブリノーゲン値の低下

問50 肺葉捻転に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 深く狭い胸の犬でより多くみられる。
2. 胸水貯留を伴うことが多い。
3. X線検査では通常無気肺が認められる。
4. 捻転した肺葉は重度の虚血状態になる。
5. 自然治癒することは稀である。

問51 疾患とその診断のための検査の組合せとして適切でないのはどれか。

疾患名	診断方法
1. 副腎皮質機能低下症	ACTH 刺激試験
2. 甲状腺機能亢進症	血中 T4 濃度の測定
3. 膵外分泌不全	血中アミラーゼ活性の測定
4. 犬回虫症	糞便検査
5. 腸リンパ管拡張症	内視鏡検査

問52 犬と猫の腎障害の原因となる薬剤として一般的でないのはどれか。

1. ゲンタマイシン
2. ジアゼパム
3. ヨード造影剤
4. シスプラチン
5. エチレングリコール

問53 蓄積性の心毒性を示す抗腫瘍薬はどれか。

1. ドキソルビシン
2. ロムスチン
3. L-アスパラギナーゼ
4. シスプラチン
5. ビンクリスチン

問54 牛のヨーネ病に関する記述として適切なのはどれか。

1. 感染様式は主に胎盤感染である。
2. 潜伏期間は5～7日間である。
3. 症状は慢性かつ難治性の下痢である。
4. 診断は血中の原因菌を検出することによる。
5. 治療には適切な抗菌薬の投与が有効である。

問55 牛の腎盂腎炎に関する記述として適切なのはどれか。

- a 原因菌は *Corynebacterium* 属細菌が主である。
- b 感染経路は大部分が血行性である。
- c 症状は多飲多尿と血色素尿排泄である。
- d 血液検査では血小板減少症が特徴的である。
- e 治療には適切な抗菌薬が有効である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問56 牛の小型ピロプラズマ病に関する記述として適切なのはどれか。

- a 原因は *Babesia ovata* の赤血球寄生である。
- b ベクターはアブである。
- c 主症状は貧血である。
- d 末梢血液塗抹標本を用いた病原体検出により診断可能である。
- e 治療にはイベルメクチンの投与を行う。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問57 牛の胸膜炎に関する記述として適切なのはどれか。

- a 原因は胸壁の穿孔性外傷が主である。
- b 罹患牛は体動を嫌い呼吸が浅く速迫となる。
- c 胸膜摩擦音が聴取されることがある。
- d 血清 A/G 比の増加が特徴的である。
- e 主な治療法は強心薬投与である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問58 犬の正常な肝実質の超音波検査像に関する記述として適当なのはどれか。

- a 肝動脈の明瞭な描出は困難である。
- b 門脈周囲は高エコーに描出される。
- c 肝静脈周囲は高エコーに描出される。
- d 胆管は明瞭に描出される。
- e 各葉は明瞭に区分される。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問59 消化管の画像診断に関する記述として適当なのはどれか。

- 1. 単純X線検査により消化管壁の厚さを評価できる。
- 2. 消化管穿孔の確定診断にはバリウム造影X線検査が推奨される。
- 3. 超音波検査において、犬の正常な小腸は通常3層構造として認められる。
- 4. 単純X線検査において、腹腔内脂肪は消化管漿膜面の観察の妨げになる。
- 5. 腸管内のガスは音響陰影の原因となり、腸管超音波検査の妨げになる。

問60 犬の胃拡張捻転症候群に関する記述として適切でないのはどれか。

- 1. 大型、超大型犬に発生が多い。
- 2. 食物摂取直後の運動は危険因子の1つである。
- 3. 多くは嘔吐物を伴わない嘔気を伴う。
- 4. 本症が疑われる場合には救急処置前に必ずX線検査で確定診断を行う。
- 5. 胃の整復と永久的胃腹壁固定術が適応となる。

問61 11 か月齢のヨークシャー・テリアから摘出した膀胱結石が尿酸アンモニウム結石であった。本症例に合併している疾患として最も疑われるのはどれか。

1. 膀胱移行上皮癌
2. 門脈体循環シャント
3. 甲状腺機能亢進症
4. 僧帽弁閉鎖不全症
5. 糸球体腎炎

問62 治療の一環として去勢手術が行われる犬の疾患はどれか。

1. 肛門周囲瘻
2. 前立腺肥大症
3. 膀胱腫瘍
4. 直腸脱
5. 肛門囊腺癌

問63 犬の口腔腫瘍に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 悪性黒色腫は他の腫瘍に比べリンパ節転移率および遠隔転移率が高い。
2. 線維肉腫は組織学的に悪性所見に乏しくても予後が悪いことがある。
3. 棘細胞性エナメル上皮腫は骨融解を伴うことがある。
4. 扁桃の扁平上皮癌は摘出により一般的に長期生存が可能である。
5. 下顎骨の骨肉腫は四肢骨格の骨肉腫に比べ遠隔転移率が低い。

問64 犬皮膚肥満細胞腫の外科療法に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 腫瘍の肉眼的境界から2～3 cm のマージンを取った切除が望ましい。
2. 底部マージンには筋膜を含めることが推奨される。
3. 病理学的に悪性度が高くなく外科マージンが確保されている場合、多くが外科療法単独で根治可能である。
4. 切除縁に腫瘍細胞が残存している例ではほぼ全例が局所再発する。
5. 不完全切除の際の追加療法として放射線療法は有効である。

問65 犬の前十字靭帯断裂に関する記述として適当なのはどれか。

1. 最も多い原因は急性外傷性断裂である。
2. 大型、超大型犬に比べて、小型、トイ犬で若齢期における発生率がより高い。
3. 一方の損傷後、反対側にも損傷を生じることが非常にまれである。
4. 半月損傷を伴う場合、外側半月より内側半月に損傷がみられることが多い。
5. 診断時に変形性関節症を伴うことはまれである。

問66 犬の離断性骨軟骨症に関する記述として適当でないのはどれか。

1. 大型、超大型犬に発生が多い。
2. 高齢になって初めて症状が認められることが多い。
3. 初期病態として軟骨内骨化の障害が認められる。
4. 肩関節、肘関節、膝関節、足根関節に発生が多い。
5. 症状が片側性の場合でも両側関節の検査を行うべきである。

問67 右眼の動眼神経のみに障害がある場合に生じる直接および間接対光反射検査の結果の組合せとして正しいのはどれか。

	右眼		左眼	
	直接対光反射	間接対光反射	直接対光反射	間接対光反射
1.	+	+	+	+
2.	+	-	-	+
3.	-	+	+	-
4.	+	+	-	-
5.	-	-	+	+

+ : 正常、- : 消失

問68 ウサギに抗菌作用を示す用量で経口投与して安全に使用できる抗菌薬はどれか。

- a エンロフロキサシン
- b セファゾリン
- c クリンダマイシン
- d エリスロマイシン
- e トリメトプリムサルファ

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問69 牛の第四胃変位に関する記述として適切なものはどれか。

- 1. 発症は分娩後の乳牛に多い。
- 2. 右方変位は左方変位より発生頻度が高い。
- 3. 左方変位では第四胃捻転を伴うことが多い。
- 4. 右方変位の治療法としてローリング法が適用できる。
- 5. 傍正中切開による整復手術は禁忌である。

問70 馬のウォブラー症候群に関する記述として適切でないのはどれか。

1. 胸椎の椎孔狭窄が原因である。
2. 主に後肢あるいは四肢の運動失調を示す。
3. 育成馬など若馬に多発する。
4. 抗炎症薬の全身投与は一過性に症状を緩和することがある。
5. 脊髄X線造影検査により確定診断できる。

問71 効率的な繁殖管理のために、乳牛において分娩後の繁殖検診を開始する時期として適切なのはどれか。

1. 1週間以内
2. 10～15日目
3. 30～40日目
4. 60～70日目
5. 90～100日目

問72 雄牛の繁殖障害の種類と原因の組合せとして適当でないのはどれか。

- | 繁殖障害 | 原因 |
|----------|------|
| 1. 交尾不能症 | 勃起不能 |
| 2. 無精子症 | 先天異常 |
| 3. 血精液症 | 陰茎腫瘍 |
| 4. 膿精液症 | 精囊腺炎 |
| 5. 夏季不妊症 | 精巣腫瘍 |

問73 雌牛の発情異常に関する記述として適当でないのはどれか。

1. 卵巢静止では無発情となる。
2. 卵胞嚢腫では持続性発情を呈するものがある。
3. 春機発動に伴う無発情排卵は生理的なものとみなされる。
4. 鈍性発情は乳量の少ない乳牛で多発する。
5. 無排卵性発情の治療には GnRH を投与する。

問74 牛のフリーマーチンに関する記述として正しいのはどれか。

- a 三倍体である。
- b 雌性仮性半陰陽となる。
- c 性染色体キメラである。
- d 膣は正常より短い。
- e ロバートソン型転座がある。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問75 交尾排卵動物はどれか。

1. モルモット
2. スナネズミ
3. シリアンハムスター
4. ラット
5. スンクス

問76 実験動物が関係する人獣共通ウイルス感染症の疾患名と原因ウイルスが属するウイルス科の組合せとして誤っているのはどれか。

- | 感染症 | ウイルス科 |
|---------------|------------|
| 1. リンパ球性脈絡髄膜炎 | アルテリウイルス科 |
| 2. エボラ出血熱 | フィロウイルス科 |
| 3. ニューカッスル病 | パラミクソウイルス科 |
| 4. Bウイルス病 | ヘルペスウイルス科 |
| 5. 腎症候性出血熱 | ブニヤウイルス科 |

問77 我が国で水産用ワクチンが承認されている疾患はどれか。

- a カラムナリス病
- b イリドウイルス病
- c α 溶血性レンサ球菌症
- d 非結核性抗酸菌症
- e ノカルジア症

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問78 魚類の細菌性腎臓病に関する記述として正しいのはどれか。

- a ヤマメ特有の病気である。
- b 我が国では 2000 年に初めて発生が認められた。
- c 病原体はグラム陽性の桿菌である。
- d 体色の黒化がみられる。
- e 予防として卵の消毒は禁忌である。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

問79 DNA ウイルスが原因の魚類の疾患はどれか。

1. リンホシスチス症
2. 伝染性造血器壊死症
3. 伝染性脾臓壊死症
4. ウイルス性神経壊死症
5. コイ春ウイルス血症

問80 粘液胞子虫が原因の魚類の疾患はどれか。

1. ダクチロギルス症
2. トリコジナ症
3. グルゲア症
4. イクチオホヌス症
5. 筋肉クドア症

